
高等研究院遺伝子検査室

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

E-mail : mgrc@gifu-u.ac.jp

TEL : 058-293-3171

FAX : 058-293-3172

目 次

◆ 高等研究院遺伝子検査室長挨拶	235
------------------------	-----

岐阜大学高等研究院科学研究基盤センター遺伝子検査室

岐阜大学特任教授・名誉教授、登録衛生検査所岐阜大学高等研究院遺伝子検査室管理者

一般社団法人東海マスキリーニング推進協会理事長 下澤伸行

岐阜大学高等研究院と医学部附属病院のご支援にてゲノム研究棟内に高等研究院遺伝子検査室を設置し、2021年3月1日付で衛生検査所に登録が認可され、4月1日より全国医療機関に対して、指定難病「副腎白質ジストロフィー（ALD）」の遺伝学的検査の保険診療による受託解析を行なっています。それに伴い令和3年度より高等研究院科学研究基盤センター組織内に遺伝子検査室を設置しています。

本学では長年にわたりALDとペルオキシソーム病の国内診断拠点として機能してきましたが、研究成果の社会実装を目的に2019年7月に医学部附属病院検査部に難病検査部門を新設しゲノム研究棟内に難病検査室を設置、さらに今回の遺伝子検査室の設置による社会実装に繋げています。

岐阜県では2021年度より一般社団法人東海マスキリーニング推進協会が主導して県内で出生した児を対象にALDを含めた7つの疾患を追加した新たな新生児スクリーニング検査が開始され、令和4年以降は毎月、岐阜県内出生の80%近くの赤ちゃんが受検しています(<http://www.tokai-mass.jp>)。また愛知県でも従来の追加検査にALDが加わり、両県で全国に先駆けてALDの新生児スクリーニング検査が実施され、陽性者の精密診断は全て難病検査室及び、遺伝子検査室で行われています。

遺伝子検査室開設時の内覧会では吉田病院長（現、学長）や王副学長・高等研究院長から、「全国難病患者の診断実績を積み重ねて、社会貢献から大学のプレゼンス向上に寄与することを期待しています」と激励されました（写真）。

初年度となる令和3年度の遺伝子検査室におけるALD遺伝学的検査の受託解析実績としては院内20件、院外58件、このうち名古屋大学病院より24件の解析依頼があり、診断結果を迅速に提供し、岐阜大学の医療実装として社会に貢献しています。引き続き、全国の対象難病患者の早期診断から疾患克服に取り組むとともに、学内における診断開発研究の臨床実装を支援したいと考えています。



内覧会写真 2021年4月

（左から）吉田病院長（現学長）、高島助教（現准教授）、下澤分野長（現特任教授）、渡邊検査部副部長、王副学長、田中センター長（現嫌気性菌研究分野長）

